

地蔵盆

―地域で子どもたちの成長を見守る―

地蔵盆とは、旧暦七月二四日（毎月二四日は地蔵菩薩の縁日）前後のお盆の期間中心に行われる地蔵菩薩のお祭りを指します。ただし、寺の中に祀られている地蔵菩薩のことではなく、道祖神信仰と結びついた路傍あるいは辻の地蔵がその対象で、子どもたちの健やかな成長を地域で見守るという意味が込められているようです。現在も各所で行われていますが、今回は牧平町の地蔵盆を紹介しましょう。

牧平町の地蔵盆は、新暦八月二四日前後の日曜日に「農村婦人の家」で行われます。以前は、豊富神社の右横の地蔵の祠前でやっていました。この地蔵盆の特色は、カボチャ・キュウリ・ナス・トウガン・ジャガイモを使って、地域の大人たちが心を込めて香炉、ロウソク立て（鶴・亀に模した）などを作り上げていく点が貴重で珍しいと言えるでしょう。当日午後一時ごろに、地域の大人（男性）が作り物にする野菜などを会場に運び込み、作り物の準備に取り掛かります。一方女性たちは地蔵の祠から運び込まれた地

蔵の衣装替えを行い、綺麗に飾りつけていきます。午後四時近くに

なると、親子連れが続々と会場に集まってくる。四時三〇分過ぎから御詠歌が始まります。それが終わると午後五時頃より僧侶による読経が行われ、全員に清めの水と塩・洗米が回り、回り終わったところで、読経も終了します。その後、僧侶の法話が行われ、それが終わると、大人達から子ども一人ひとりに供物が配られます。子ども達も笑顔がとて印象的でした。

「地域の教育力低下」などと言われていた昨今ですが、この祭りを見ていると、子どもたちの成長を見守っていくこうとする地域の人々の願いや伝統の大切さを感じます。いつまでも失いたくない意識の一つであると強く再認識しました。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也



衣装替えした地蔵・ロウソク立て・香炉

『ほくろ』の癌の検査

皆さんの体にはたいていどこかに『ほくろ』があると思います。『ほくろ』には生まれつきあるものもあれば、大人になっていつのまにか出来たものもあると思います。小さく平らなものからちよつと盛り上がったもの、またコブのように大きくなったものまであり、色も黒いものから肌色のもので様々だと思います。

『ほくろ』にはただ単に『ほくろ』であるものもあれば、一見『ほくろ』に見える皮膚癌もあります。皮膚癌を放置すると全身に広がることもあるので、早期発見、早期治療が大事です。

皮膚癌の確定診断には局所麻酔をして一部皮膚をきりとる皮膚生検検査が必要です。この検査は麻酔をする時に痛みがあり、傷がでるのが欠点です。

『ほくろ』の癌には極めて悪性度が高い悪性黒色腫などがあります。

市民病院皮膚科では皮膚癌の診察にダーマスコピーという特殊な拡大鏡を使用して診断率を向上させています。皮膚にジェルを塗って拡大鏡を押し付け肉眼では見えないような細かい血管や皮膚の状態を観察します。所要時間も短く、この検査で癌の可能性が高ければ皮膚生検します。

以前は足底の『ほくろ』でフィソ以上の大きなものは積極的に皮膚生検検査をしていましたが、現在はダーマスコピーを使用していることで可能性が低ければ様子をみることで多くなりました。

『ほくろ』の癌が心配な方は、かかりつけ医から一度市民病院皮膚科を紹介してもらってください。

岡崎市民病院 皮膚科

統括部長 加藤 陽一

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。